

国境と領土の確定

飛鳥

奈良

平安

鎌倉

室町

安土桃山

江戸

明治

大正

今日の問い

明治政府は、周りの国々とどのように国境と領土を定めたのだろう。

読み終えたら、最後の「問いへの答え」を見る前に、自分の言葉で答えてみよう。

1 国境の確定

国境の画定

樺太・千島交換条約

1875年にロシアと結び、樺太と千島列島の国境を定めた条約。

小笠原諸島

1876年に日本の領土として国際的に認められた、南の島々。

尖閣諸島

1895年に沖縄県に編入された、日本の南西の島々。

近代国家には、はっきりした国境が必要であった。北では、1854年の日露和親条約で樺太は日本人とロシア人が混じって住む土地とされ、国境が決まっていなかった。政府は1875年、ロシアと**樺太・千島交換条約**を結び、樺太をロシア領、千島列島をすべて日本領とした。南では1876年、**小笠原諸島**が日本の領土として国際的に認められた。

さらに政府は、どの国にも属していないことを確かめたうえで、1895年に**尖閣諸島**を沖縄県に、1905年に**竹島**を島根県に編入した。こうして日本の領土の範囲が定まっていた。現在、竹島は韓国に不法に占拠され、尖閣諸島は中国などが領有を主張しているが、どちらも日本固有の領土である。

年	確定した領土
1875	樺太・千島交換条約 (樺太→ロシア、千島列島→日本)
1895	尖閣諸島 を沖縄県に編入
1905	竹島 を島根県に編入

2 北海道の開拓と琉球処分

北海道・沖縄

開拓使

1869年、北海道の開拓のために置かれた役所。

屯田兵

北海道の開拓と北方の防備を兼ねて移り住んだ兵士。

琉球処分

琉球藩を置き、1879年に沖縄県として日本に組み入れたこと。

1869年、政府は蝦夷地を北海道と改め、開拓を進める役所として**開拓使**を置いた。仕事を失った士族などが**屯田兵**として移り住み、ふだんは農業をしながら北方の防備にもあたった。一方、もともと住んでいた**アイヌの人々**は、土地や漁・狩りの場をうばわれ、日本風の名前や日本語を使わせる同化政策が進められた。

琉球王国は、江戸時代には薩摩藩に支配されながら、清にも使いを送る関係が続けていた。政府は1872年に琉球王国を琉球藩とし、1879年には軍隊を送って琉球藩を廃止し、**沖縄県**を置いた。この一連の動きを**琉球処分**といい、15世紀から続いた琉球王国はなくなった。

問いへの答え

政府は1875年にロシアと樺太・千島交換条約を結んで北の国境を定め、小笠原諸島・尖閣諸島・竹島も日本の領土に組み入れた。北海道には開拓使を置いて屯田兵などによる開拓を進めたが、アイヌの人々には同化政策を行った。琉球は琉球処分によって沖縄県とされ、日本の領土の範囲が定まった。

次は ノート で、下線に語句を書きながら確かめよう →

